

平成27年度[第36期]事業報告

社会福祉法人 愛信会

平成27年度の介護報酬改定は、マイナス2.27%の改定と公表されているが、事業者側にはプラス分に見込めない介護職員処遇改善加算の増額分を加えると、実質約4%のマイナスとなり過去最大のマイナス改定となり、経営環境は今まで以上に厳しい状況となった。対応策としては、有資格者の適正配置・看取りの実施等による加算収入による増収、人員配置の見直しによる人件費の削減、契約内容の見直しによる経費の削減等により、マイナス改定の影響を最小限度に抑えることができた。消耗品及び給食材料の契約料金見直しは、検討に着手したがスケールメリットを活かし法人本部で統括することとし、次年度の継続課題とする。

平成27年4月に開設した地域密着型特養「ユニット型特別養護老人ホームいちょうの木」は、介護職員の確保が困難を極め29床フルオープンに至らなかった。人材派遣紹介会社の活用・夜勤専従職員の採用等、求人活動を強化し早期安定運営を目指している。

平成27年度の事業運営については、くきの里（特養・ショートステイ）及びユニット型特養いちょうの木において業績が低迷する中、サービス活動収入は法人全体で初めて10億を超え、1,090,000千円の事業規模に達した。サービス活動収入が10億超の法人は、全国の社会福祉法人約2万法人のうち8%と推計されているが、今回の社会福祉法の改正により会計監査人の設置義務対象法人となる公算が大であり、その導入準備に取り掛かっているところである。経費においては、前述のとおり契約内容の見直し他経営の効率化が奏功し、法人合算当期活動増減差額は41,956千円を確保できた。年度重点項目事業の実施状況及び各施設・事業所の事業概要については、次のとおり報告いたします。

I. 重点項目事業報告

(1) 地域貢献活動及び公益的取組み

社会福祉事業を行う社会福祉法人として、低所得者等生計困難者に対して、利用者負担額軽減制度事業の適正な制度利用拡大に努めた。地域における公益的な取組みとしては、土浦市社会福祉協議会と土浦市内32施設で構成する「土浦市民間社会福祉施設協議会」と土浦市との間で災害時連携協定を締結し、地域の防災拠点として機能できるよう準備を進めている。また、平成25年度から地域福祉の相談窓口として、土浦市社会福祉協議会の委託を受け障害者虐待防止センターの夜間・休日受付相談窓口として活動している。

土浦市・つくば市から受託している在宅介護支援センターでは、地域に出向いての「介護相談教室」、「認知症サポーター養成講座」の開講等高齢者支援事業に積極的に取り組んできた。

(2) 利用者の重度化・看取り介護及び認知症ケアに対応できる専門性の高い介護職員の育成

年間研修計画の中に、認知症ケア、看取りケア、介護力向上研修会等職種別に専門研修会受講を計画し、研修受講内容を施設内勉強会の伝達研修により職員のレベルアップを図っている。医療的なケアに関しても、たん吸引指導者講習修了（看護師1名）、たん吸引実施講習修了（介護福祉士2名）を養成することができた。

(3) 法人内人事交流の推進

新規開設した施設の職員確保が遅れ、当初計画していた人事交流が実施出来なかった。職員求人方法を見直し、通年採用から定期採用による人材確保に努め、人事交流を推進し職場の活性化を図る。

(4) 経営情報の積極的な情報公開

平成28年度から義務化される経営情報の閲覧・公表については、法人ホームページ、全国社会福祉法人経営者協議会ホームページ、全国老人福祉協議会ホームページ等の媒体を通して積極的に情報提供に努めた。また、広報誌の発行についても、法人全体の活動内容を地域に情報発信するため法人合併号として発行を試みた。

(5) 法人新人事制度の導入

キャリアパス制度の導入に向けて、今年度から目標設定の面接を開始した。今後はリーダー層他中間管理職を育成し、考課者訓練の実施に向けて準備する。

II. 静霞園事業報告

【運営状況】

入居部門は、入居者の高齢化・重度化の影響等で新規入居者18名、退居者も18名と昨年度よりは若干減少したが入退居者数は年々増加傾向にある。退居者18名のうち看取りケアで9名を対応し、退居者の50%（昨年度35%）を占め、終の棲家としての役割はある程度担えたのではないかとと思われる。入居待機者については、減少傾向にあり、今まで以上に居宅系事業所、医療機関の地域連携室等との連携強化を急ぐ必要がある。

従来型特養は前年度を若干上回る入居者数で、稼働率は、ほぼ横ばいの95.3%（昨年95.1%）であったが、介護保険改正による介護職員処遇改善加算の見直し等により、前年度を上回る収益を達成出来た。ユニット型特養は稼働率は、96.2%と昨年度を若干下回ったが、従来型同様に加算の見直しや取得により収益は前年度を上回った。

短期入所事業は、85.7%の稼働を目標に掲げたが、前年を大きく下回る54.6%の稼働にとどまった。特養の空床期間を減らすため、ミドルステイ利用者の確保に努めたが、安定的に利用者を獲得する事が出来なかった。

デイサービスは、年間目標には若干及ばなかったが、昨年同様、利用契約者は増加傾向にある。新規利用契約が25件、前年度比458名増の利用者延べ数であった。利用日追加への柔軟な対応、機能訓練他利用者ニーズに合わせたサービス提供に努めた。

訪問介護事業所は、訪問介護員の確保が遅れた中、延べ利用者数は前年比約190名増となった。身体介護への高いニーズを汲み取る事で、評価を得たと思われる。

居宅介護支援事業所については、月間ケアプラン件数が83.5件と昨年度より増加傾向にある。今後も一層の営業活動の強化・他事業所との連携強化が不可欠である。

土浦市の受託事業である在宅介護支援センターは、相談件数こそ減ったものの、相談内容は認知症、医療、精神保健、権利擁護等多岐にわたり、対応に時間を要するケースが増加している。今後も地域包括ケアシステムにおける地域の福祉相談窓口として、施設全体で取り組むことが求められている。

【人事関係】

職員の人材育成・教育については、施設内外の研修計画及び新任職員研修の実施により、前年度同様に離職者を抑える事が出来た。

採用（10名）	・ <u>常勤職員</u>	3名
	介護職	2名
	調理職	1名
	・ <u>非常勤職員</u>	7名
	介護職	5名
	居宅ケアマネ	1名
	調理職	1名
退職（8名）	・ <u>常勤職員</u>	6名
	介護職	3名
	事務職	1名
	居宅ケアマネ	1名
	調理職	1名
	・ <u>非常勤職員</u>	2名
	介護職	1名
調理職	1名	

※退職理由	健康上の理由	1名
	自己都合	4名
	結婚・転居	1名
	定年	1名
	契約期間満了	1名
期末職員数 (76名)	常勤	53名
	非常勤	21名
	派遣	2名

【施設設備等整備内容】

施設設備整備事業としては、従来型特養のベッドの更新、従来型特養の機能訓練室及びデイサービスのホールに加湿空気清浄器を設置した。ベッドについては低床タイプを導入し、利用者の更なる安全確保に努めた。又、介護者の移乗介助時の腰への負担軽減を図った。

内容（主なもの）	金額（千円）
<修繕工事>	
污水管洗浄	122千円
温水ボイラー修理	118千円
特殊浴槽ストレッチャー修理	146千円
冷蔵庫ファンモーター修理	53千円
従来型特養トイレ配管修理	131千円
消防設備受信機基盤交換	151千円
厨房排水改修工事	508千円
給湯循環配管工事	184千円
自閉装置ワイヤー交換	58千円
<器具備品購入>	
利用者食器	128千円
低床ベッド更新	939千円
<施設設備整備>	
支援センター公用車入替え（リース契約）	1,095千円
加湿空気清浄器3台（リース契約）	1,050千円
給茶器ティーサーバー（リース契約）	715千円

【財務・収支状況】

平成27年度のサービス活動収益は、短期入所事業所等一部目標稼働率に及ばなかったが、全体としては前期稼働実績を上回り、前年度比10,532千円の増収となり経常増減差額も見込みを上回る収益を確保できた。

◇経常増減差額	・・・	18,927千円
◇事業活動資金収支差額	・・・	44,819千円
◇当期末支払資金残高	・・・	178,914千円
（当期資金収支差額	・・・	13,810千円）
◇当年度積立金積立額	・・・	5,000千円（本部へ繰入れ）

Ⅲ. ポプラ館事業報告（本部・ケアハウスポプラ館）

【運営状況】

平成27年度入退居者の状況は入居者15名、退居者9名となり、年度末の入居者数は平成26年度末より6名増の50名であった。例年以上の入居者数となり、早期に空室を埋めることができた。要因としては適切なポイントセールスと同業、異業種との連携・ホームページ等を利用した定期的な情報発信が功を奏したことによるものと考えられる。前年度同様に多くの退居があった理由としては、前期より退居が見込まれていた方が4名いたこと、伴侶と添い遂げたいという希望を叶えるための転所、家族関係の改善による在宅への復帰、認知症が中・重度化した入居者を適切な施設等へ紹介したことなど、きめ細かい対応ができた結果である。残念ではあるが、持病悪化による病院入院中死亡に至るケースが2件あった。

年度全体を通じてみると、目標入居率96%（48人）に対し実績96%となり、前半の利用率低迷を7月末までに回復、満室とし、期末までほぼ維持することができた。それに伴い利用料収入は前期を上回り、当初目標も上回ることができた。寄付金2,000千円の収入は入居者が職員の対応について、高い評価をいただいた結果としての収入であった。入居待機者の確保においては7組8名の申し込みを受けている状況である。見込者に至っては常に20名程度を確保して推移している。

【人事関係】

職員については人材が非常に安定しており利用者、ご家族からも好評価をいただいている。常勤職員（栄養士）採用については定年を迎える栄養士の後継者として安定した人材の確保を見越した採用であった。

《ポプラ館》

◇採用（1名）	常勤職員1名（栄養士）
◇退職（0名）	

《本部》

◇常勤事務職員 1名（異動）、兼務事務職員 2名

◇期末職員数（14名） 常勤職員 10名（施設長兼務を含む）
非常勤職員 4名

【施設設備等整備内容】

施設整備事業としては開設20年を迎え、設備の老朽化は否めない状況にある。特にボイラー設備及び給湯システムに大きな不具合を抱えたまま何とか状態を維持する努力を重ね運営している現状がある。そのほかにも設備更新が求められる機器が多くあることや、予想される建て替えや大規模修繕にも対応するための積立の実施など今後を見越した財源確保がこれからの課題である。

内容（主なもの）	金額（千円）
<修繕工事>	
電気温水器修理交換 2台	194
談話室等畳張替え	174
多目的ホール床面張替	395
次亜塩素薬注タンク交換	88
誘導灯バッテリー交換	138
防災監視盤等バッテリー交換	136
厨房照明器具交換工事	92
BS アンテナ交換工事	75
エレベーター部品交換	172
自動ドア部品交換	77
スプリンクラー配管修理	151
<施設設備整備>	
居室エアコン入替え 10台	1,263

【財務・収支状況】

◇経常増減差額 . . . 1,171 千円
（ポプラ館 9,415 千円, 本部▲8,244 千円）

◇事業活動資金収支差額 . . . 7,398 千円

◇当期末支払資金残高 . . . 52,792 千円
（当期資金収支差額） . . . 6,206 千円

◇当年度積立金積立額（本部） . . . 10,000 千円（本部）
当年度末積立金積立額 . . . 30,500 千円

IV. くきの里事業報告

【運営状況】

特養の年間稼働率は91.8%と昨年を2パーセント下回っている。入退居者数は計39名（入居20名・退居19名）であった。昨年度に比べ入退居者数12名増加しており、入退居が多かった分稼働率の低下をきたしている。また、夏場の入院者数が多く空床を埋められなかったことも要因の一部であった。

短期入所利用者の平均要介護度は2.9と年々上昇している。一日当たりの利用者数も13.1人と昨年同様の実績であった。サテライトのオープンに伴い長期での短期入所・特養入居待機者数には実数以上の影響が出てきているものと思われる。介護の重度化に伴い看取りに近いケースも増え、入院による空床を生じさせないためにも看取り介護の取り組みが今後必要となってくることと思われる。

デイサービスの実績は昨年度と同等であったが、年間稼働目標には及んでいない。新規利用者は26名であったが終了者も多く、施設入居等での終了者に新規利用者が追いついていけず、安定した利用者確保が課題である。一昨年末に大型デイサービスが近隣にオープンしたが、オープン当初当施設利用者数に影響は出ていたものの、徐々に回復し、年度末（3月）には何とか月間目標値に達した。

訪問介護は週90件のサービス目標をほぼ達成することができた。また、登録者も平均40名と安定していた。

居宅介護支援事業所は、要介護給付並びに予防給付を合わせ毎月170件以上の活動であり目標を達成できた。規定により、利用者増加に伴い職員増員を検討する必要がある。

在宅介護支援センターの活動は困難事例が多かった。特に独居高齢者の対応が増加している。今年度も認知症サポーター養成講座も担当し、自治会、会社等での講座を開催した。地域に根差した活動であった。

ケアハウスは新規入居1名退居4名であったが、利用率は95.9%と昨年度を約5%上回り、実績はほぼ計画通りの結果であった。しかし、待機者数が少なく入居者の確保においても非常に厳しい状況が続いている。また、入居者の高齢化は否めず、ほとんどの入居者が外部介護サービスを使用し生活を維持している。

【人事関係】

12月1日付で前施設長の本部事務局異動に伴い、施設長を交代した。また、各部門を統括する課長クラスを任命し、組織的な管理を強化している。

採用（19名）	• <u>常勤職員</u>	6名
	特養介護職	1名
	看護職	2名
	通所介護職	2名
	調理職	1名
	• <u>非常勤職員</u>	9名
	特養介護職	3名
	介護補助職	1名
	理学療法士	1名
	看護職	1名
	調理職	1名
	介護支援専門員	1名
	訪問介護職	1名
	• <u>派遣職員</u>	4名
	特養介護職	1名
看護職	3名	
退職（16名）	• <u>常勤職員</u>	8名
	特養介護職	2名
	通所介護職	1名
	看護職	2名
	介護支援専門員	1名
	訪問介護職	1名
	事務員	1名
	• <u>非常勤職員</u>	5名
	ケアハウス介護職	1名
	介護補助職	1名
	看護職	1名
	調理員	1名
	介護支援専門員	1名
	• <u>派遣職員</u>	3名
	特養介護職	1名
	看護職	2名
※退職理由	自己都合	12名
	派遣終了	2名
	定年	2名
期末職員数（86名）	常勤	54名
	非常勤	28名
	登録・派遣	4名

【施設設備等整備内容】

開設から15年が経過しケアハウスウッドデッキ、デイサービス給湯器等老朽化に伴い入替を行った。

また、サテライトオープンに伴い、配食車を購入した。

内容（主なもの）	金額（千円）
＜修繕工事＞	
厨房水栓交換	35千円
エレベーターかご位置速度検出器交換	45千円
居室水栓修理	74千円
避難誘導灯電池交換	71千円
殊浴槽修理	20千円
ケアハウス 居室換気扇交換	82千円
＜器具備品購入＞	
ケアハウス ウッドデッキ交換	54千円
デイサービス給湯器交換	1,035千円
配食車購入	399千円
＜施設設備整備＞	
加湿空気清浄器4台（リース契約）	1,399千円
地下タンク機密漏洩定期検査	54千円

【収支状況】

平成27年度のサービス活動収益は、特養・デイサービス等一部目標稼働率に及ばず、全体としては前年度比5,000千円の減収となったが、経常増減差額は27,463千円を確保できた。

拠点区分：くきの里

◇経常増減差額	・・・	27,463千円
◇事業活動資金収支差額	・・・	37,045千円
◇当期末支払資金残高	・・・	185,495千円
（当期資金収支差額	・・・	6,298千円）
◇当年度積立金積立額	・・・	5,000千円（本部へ繰入れ）

ケアハウスでは費用については前年並みとなり、稼働率の向上がそのまま影響し、経常増減差額は712千円であった。

拠点区分：ケアハウスくきの里

◇経常増減差額	・・・	712千円
◇事業活動資金収支差額	・・・	4,073千円
◇当期末支払資金残高	・・・	17,239千円
（当期資金収支差額	・・・	1,936千円）

V. いちょうの木

【運営状況】

平成27年4月21日地域密着型特養「ユニット型特別養護老人ホームいちょうの木」開所。現在まで2ユニットオープンにて運営している。オープンが遅れ年間の目標は達成できていないが、2ユニットでの稼働は7月以降の平均では96%であり、年度末満床（20床）であった。法人全体として人員の確保に力を入れてきたが、職員数の不足により3ユニット目のオープンが遅延している。また、地域交流スペースの活用推進と共に地域の民生委員などに開放し、勉強会などを兼ねて見学会も実施し、地域の理解を深めてもらっている。

グループホームいちょうの木では、入退居者の状況は新規入居者3名、退居者3名であったが待機者数が少なく、退居後の新規入居がスムーズに進まなかった。しかしながら、年間稼働率は94.2%と昨年度よりも約5%上回った。

また、年度後半からは職員の配置・勤務体制を見直し、効率的な運営に努めた。

ユニット型特養のオープンによりいちょうの木拠点内での連携を図れるように、医務室の体制や夜間の協力体制を整備に努めている。

【人事関係】

平成27年4月1日付でグループホームいちょうの木の管理者を交代した。

採用（12名）	・常勤職員	6名	
	ユニット介護職	4名	
	グループホーム介護職	1名	
	看護職	1名	
	・非常勤職員	6名	
	ユニット介護職	5名	
	介護補助職	1名	
	退職（7名）	・常勤職員	3名
		ユニット介護職	1名
		グループホーム介護職	1名
看護職		1名	
・非常勤職員		4名	
ユニット介護職		2名	
グループホーム介護職		2名	
※退職理由	自己都合	7名	
期末職員数（28名）	常勤	19名	
	非常勤	9名	

【施設設備等整備内容】

ユニット型特養オープンに伴い野立案内看板の更新、介護浴槽の購入、車椅子体重計、衣類乾燥機等の購入。グループホームでは老朽化に伴い居室のリフォーム、自動ドアのセンサー修理等を行っている。

内容（主なもの）	金額（千円）
<修繕工事>	
野立て案内看板更新	220千円
居室一部リフォーム（2部屋）	87千円
パントリー手すり改修	76千円
自動ドア修理	64千円
水栓修理	59千円
<器具備品購入>	
衣類乾燥機 3台	351千円
物置一式	126千円
車イス体重計 マニュアルストレッチャー	311千円
介護浴槽	723千円
<施設設備整備>	
職員通用口テンキー錠取付	42千円
加湿空気清浄器 3台（リース契約）	1,050千円

【収支状況】

◆サービス区分：グループホーム

平成27年度グループホームいちょうの木のサービス活動収益は、入居稼働率の向上に伴い、前年度比 5,250 千円の増収であったが、経常増減差額としては 4,466 千円のマイナスとなった。

◇経常増減差額 . . . ▲4,466 千円

◇事業活動資金収支差額 . . . 4,723 千円

当期末支払資金残高 . . . 17,862 千円

（当期資金収支差額 . . . 226 千円）

◆サービス区分：ユニット型特養

ユニット型特養は、フルオープンまで出来なかったため、経常増減差額は 1,291 千円のマイナスとなった。

◇経常増減差額 . . . ▲1,291 千円

◇事業活動資金収支差額 . . . 12,493 千円

◇当期末支払資金残高 . . . 41,627 千円

（当期資金収支差額 . . . 12,768 千円）